



果実袋を利用したアップサイクル商品として植木鉢の作成

県立岡山一宮高校 山添紗夢、常光彩愛、三宅晴香、橋本侑依

○はじめに

1. 背景

ごみの廃棄量の増加が問題となっている中で果実袋が使い捨てられていることを知った。

2. 仮説

果物の生産量が多い地元岡山だからこそ、果実袋の廃棄量を減少させることで、ごみの増加を防ぐことにもつながるのではないかと考えた。

3. 目的

- ・果実袋の長所を活かしたアップサイクル方法を考案する。
- ・考案したアップサイクル商品を試作し、学校での使用を提案する。



○まとめ

1. 結論

使い捨てられる予定だった果実袋をアップサイクルして、いくつかの商品を作成することができ、付加価値を上げることができた。

2. 今後の展望

- ・果実袋のアップサイクル方法として植木鉢とブックカバーを作成したが、学校に提案はまだできていないのでこれから提案する予定だ。
- ・これからさらにアップサイクル商品が注目され、増えていき、ゴミの増加が防げるようになるだろう。

○研究内容

1. 調査方法

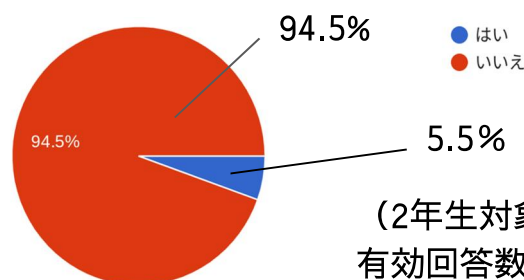
- ・ビジネスプランニング作成講座に参加し、地域のニーズにあった商品の考え方を学んだ。
- ・農家の方に果実袋の性能や購入元、企業の方に果実袋の原材料や廃棄方法をインタビューした。
- ・校内でアップサイクルの認知度についてアンケートを行った。
- ・果実袋の長所を活かしたアップサイクル商品を考案する。
- ・実際にアップサイクル商品を学校で使ってもらえるように提案する。

2. 調査内容

- ・アップサイクルの認知度について岡山一宮高校の2年生にアンケートを取った。
- ・果実袋のアップサイクル商品として、ブックカバー、着火剤などを試作した。
- ・植木鉢とその受け皿にアップサイクルすることが果実袋の長所を活かし、短所を補える方法として適していると思い、作成した。

○研究結果

3. 研究結果



4. 考察

- ・アップサイクルという言葉を知らない人が多いと分かり、商品を広め、認知度をあげることが必要だと考えられる。
- ・果実袋は防虫、防水、日焼け防止の効果があるので、植木鉢、ブックカバーなどに適していると考えられた。

○参考・引用文献

<https://spaceshipearth.jp/garbage-problem/>

<https://spaceshipearth.jp/upcycle/>

https://provenwinners.jp/magazine/howto_plant_flowers/